

平成24年産農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔平成24年12月25日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝総合振興局産業振興部〕

1 考え方

本集計は、平成24年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、各農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、戸別所得補償交付金、加工原料乳生産者補給金等を含む。
なお、本集計には、畑地の産地資金、農業共済金支払額は含まない。

2 平成24年の概要

**農協取扱高は、耕種部門が収量を確保、
畜産部門は前年並に推移し、
2,630億円**

◇耕種部門取扱高◇ 1,224億円（対前年比 107% 〔構成比47%〕）

本年は、春先の融雪遅れや降雨により農作業に遅れがみられたものの、7月以降の好天で生育は順調に経過し、小麦、豆類などは収量・品質を確保。

- 小麦は、登熟期に天候に恵まれたことから、製品歩留まりもよく、前年に比べ収量・品質とも向上し前年比17%増。
- 豆類は、総じて豊作傾向で、収穫時期の降雨により一部菜豆での品質低下や大豆での収穫遅れが見られたものの、前年以上の収量を確保したことから、前年比33%増。
- ばれいしょは、7月からの好天により生育は順調に経過し、前年以上の収量を確保したことから、前年比4%増
- てんさいは、作付面積の減少や、9月から10月にかけての記録的な高温により低糖度となったことから、前年比6%減。
- 野菜は、全国的な豊作傾向から葉茎菜類や根菜類など低価格で推移した品目が多く、前年比7%減。

◇畜産部門取扱高◇ 1,406億円（対前年比 102% 〔構成比53%〕）

- 酪農は、1年を通して前年を上回る生乳生産を維持し、乳価の上昇などから、前年比6%増。
- 肉用牛は、と畜頭数や家畜市場での取引頭数が増加したものの、昨年少落した枝肉価格や交雑種の素牛取引価格の回復に時間を要していることから、前年比5%減。

3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	平成24年		平成23年		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	取扱高	比率	
耕種	麦類	343	13.0	294	11.6	49	117
	雑穀・豆類	188	7.1	141	5.6	47	133
	ばれいしょ	236	9.0	228	9.0	8	104
	てんさい	252	9.6	267	10.6	▲15	94
	野菜	198	7.5	212	8.4	▲14	93
	その他の	7	0.3	4	0.2	3	175
小計	1,224	46.5	1,146	45.4	78	107	
畜産	酪農	991	37.7	939	37.2	52	106
	生乳	874	33.2	817	32.4	57	107
	肉用牛	388	14.8	408	16.1	▲20	95
	豚・鶏	13	0.5	15	0.6	▲2	87
	その他の	14	0.5	17	0.7	▲3	82
小計	1,406	53.5	1,379	54.6	27	102	
総合計	2,630	100.0	2,525	100.0	105	104	

※ 取扱高は税抜き。